

働きたいけど今すぐは難しい
という人の就職を支援するとき、
どのような支援方法が考えれるか？
また、何が課題となるか？

平成 19 年～	総合就業支援拠点「京都ジョブパーク」開設 ハローワークと緊密に連携し、相談から就職、職場への定着まで、ワンストップで支援する総合就業支援拠点として開設。
平成 22 年度～ 平成 24 年度	パーソナル・サポート・サービス モデル事業（内閣府） ・様々な生活上の困難に直面している方に対し、個別的・継続的・包括的に支援を実施する制度のモデル事業として内閣府が実施。 ・京都府では、モデル地区として平成 22 年に京都府パーソナル・サポートセンターを設置し事業を実施。 平成 22 年度に「ライフ＆ジョブカフェ京都」を開設。その中に「京都府パーソナル・サポートセンター※1」を開設し、3 か年にわたりモデル事業を実施。 ※1) 平成 24 年度「京都自立就労サポートセンター」に改称。
平成 23 年度～	京都式生活・就労一体型支援事業 開始（※参考資料参照） ・稼働年齢層にある生活保護受給者や長期離職者を対象として、就労支援に関する事業を実施。
平成 25 年度～	生活困窮者自立促進支援モデル事業 開始（厚生労働省） ・生活困窮者が、就労等により経済的に自立することを支援するため、本人の状態に応じた相談支援等を実施するとともに、地域における自立・就労支援等の体制を構築することを目的とした事業。平成 27 年度からの本格施行を目指してモデル事業を実施。

京都ジョブパーク利用者アンケート調査(2009年12月～2010年1月)

ジョブパークを利用する理由は？

(人)



京都ジョブパーク利用者アンケート調査(2009年12月～2010年1月)

ジョブパークにあったらいいと思うサービス・設備は？ (人)

0 10 20 30 40 50 60



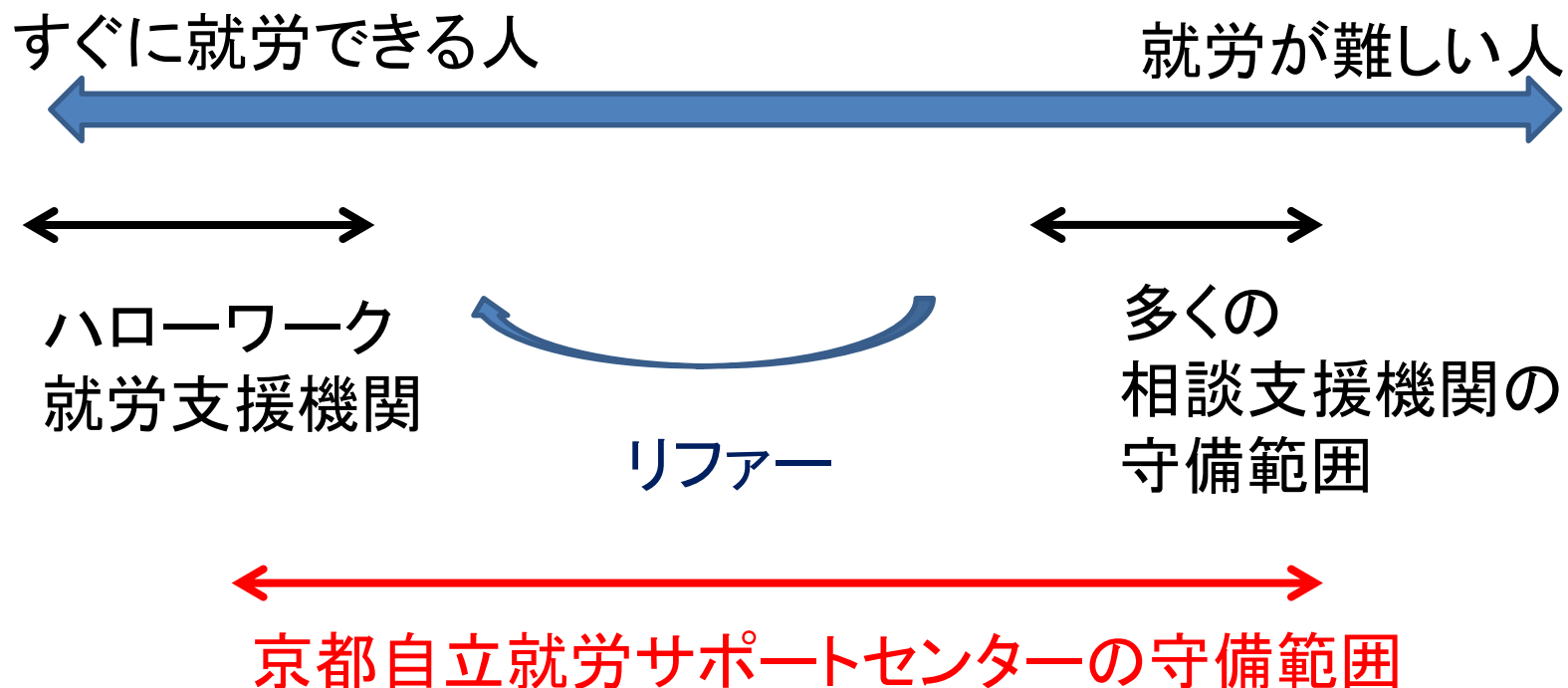
そして、2010年、ライフ&ジョブカフェ京都(現 センター)の設立！

京都自立就労サポートセンター

京都自立就労サポートセンターでは、経済的困窮や社会的孤立などの問題だけではなく複合的かつ多様な課題をもつ生活困窮の方に対し、パーソナル・サポーターが包括的・継続的に相談支援を行っています。利用者の方が安心して地域社会に参加し、生活できるよう寄り添い支援を実施していきます。

所在地	京都市南区東九条下殿田町70 京都テルサ西館3階（京都ジョブパーク内） [北部サテライト] 福知山市駅前町400 市民交流プラザふくちやま4階（北京都ジョブパーク内）
主要業務	1 支援対象者の相談対応及び寄り添い支援 2 支援対象者への就労体験、就労準備支援 3 民間企業、NPO、関係機関・団体との連携促進 4 中間的就労先の開拓および中間的就労の実施 など
実施体制	<pre>graph TD; A[センター長] --> B["主任 相談支援員 兼 就労支援員"]; B --> C["相談支援員 兼 就労支援員 (南部担当)"]; B --> D["就労体験 担当"]; B --> E["中間的就労 担当"]; B --> F["相談支援員 兼 就労支援員 (北部担当)"]; B --> G[事務員];</pre>

京都自立就労サポートセンターが支援する相談者： 多様な背景



継続支援者数182人(2015年度)のうち、

生活上の課題(衣食住の欠如、経済) 50人

健康(疾患、傷病、依存症) 23人

障害(疑いを含む) 92人

教育(不登校、中退、学力不足) 64人

実施事業

自立相談支援事業

個別面談

- ・サポーター2名で対応し包括的な相談を行う
- ・必要に応じて他機関との連携やつなぎ、情報提供を行う

巡回訪問相談

関係機関と連携し、地域や学校等への出張・巡回相談を行い、個別面談や就労支援を実施（アウトリーチ）

就労支援

- ・ハローワークとのチーム支援
- ・応募書類の作成、添削
- ・面接対策
- ・企業見学 等

定着支援

- ・就労開始後、本人の様子を定期的に確認、フォローアップを行う
- ・定着フォローの一環として
交流会の実施

専門相談

- ・弁護士による無料相談を月2回実施（うち1回は北部サテライト）
- ・臨床心理士による相談や職業適性検査、YG性格検査等

就労準備支援事業

訓練・講習

- ・社会人としての基礎を身につける
- ・コミュニケーション、ビジネスマナー
ストレスコントロールについて学ぶ
- ・面接対策のロールプレイング

技能・資格取得

- ・技能系資格取得のサポート
- ・実践に役立つ知識や技術の習得

就労体験

- ・段階的な社会参加を目指す
- ・コミュニティカフェマリマリ（センター運営）、企業やNPO等での就労体験

中間的就労サポート事業

企業開拓

雇用促進及び就労機会の積極的な提供を行っている事業所を中心に中間的就労受入事業所の開拓

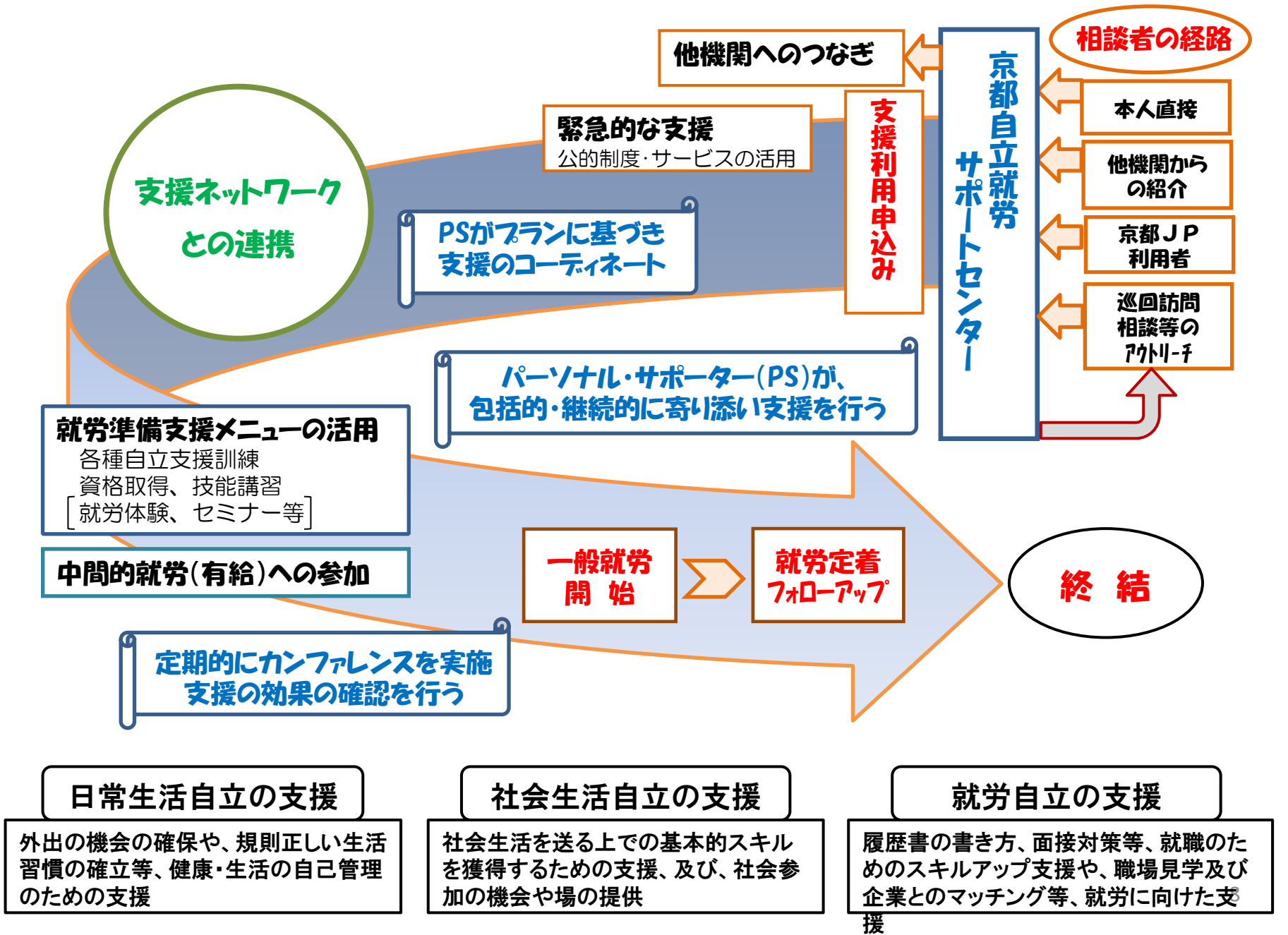
中間的就労の実施

1週間から3か月の期間で、簡易な作業から実務に近い作業まで段階的に行う

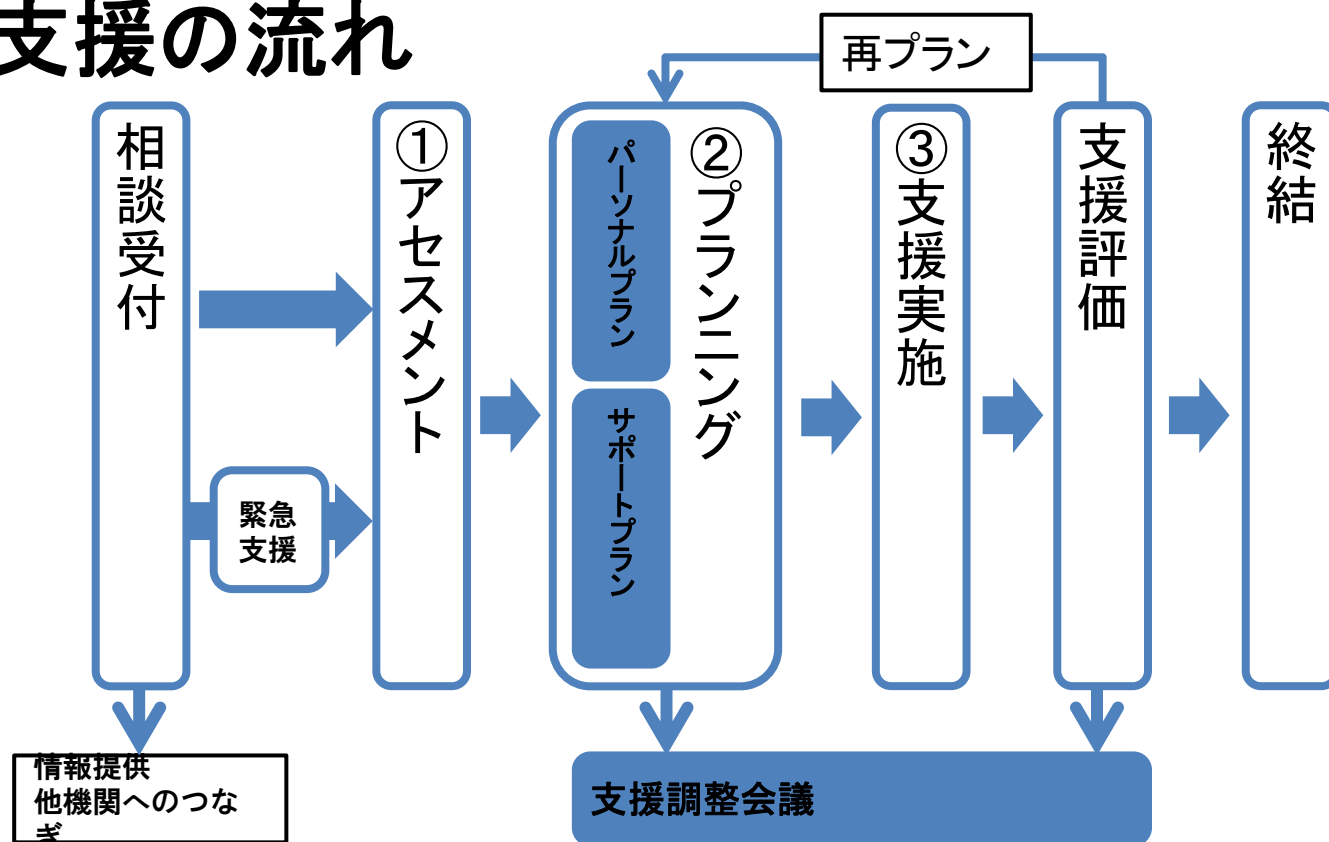
企業支援

定期訪問による参加者のフォローをはじめ中間的就労における受入等のアドバイスや地域との連携を含めた情報提供を行う

実施事業の全体像



相談支援の流れ



①アセスメント

個別面談にて本人の状況や抱える課題を把握・整理する。状況により他機関と連携した支援を行う。

②プランニング

アセスメントの結果と本人が設定した目標を踏まえてプランを作成し、支援調整会議にて協議を行う。

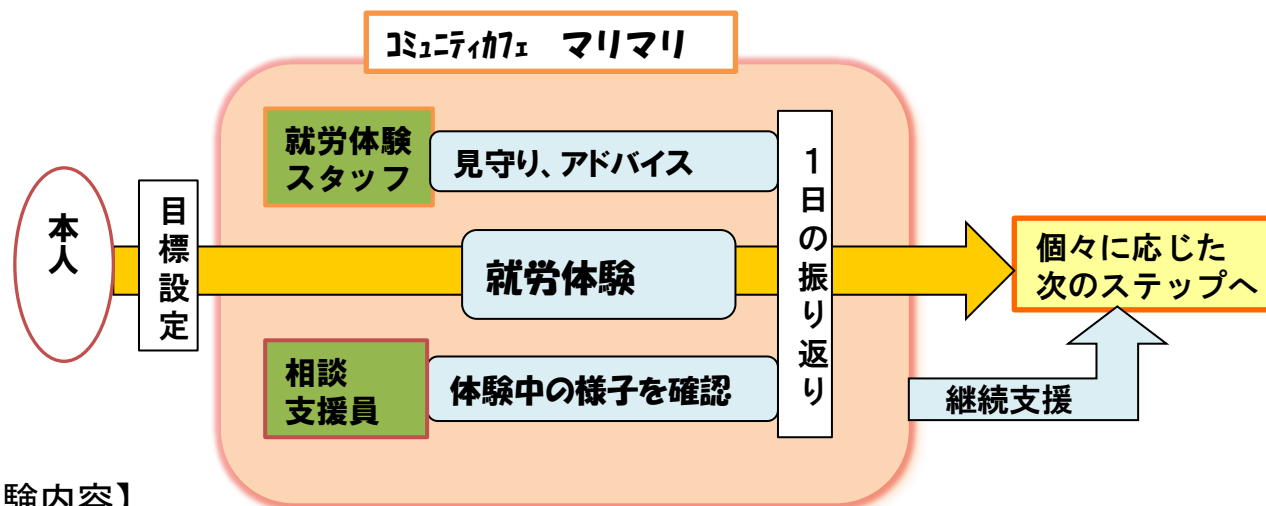
③支援実施

支援方針・プランに基づき支援を実施。定期的に効果の確認・評価を行い、必要に応じて再アセスメント・再プラン策定を行う。

相談者本人が自立するまでの定着フォローを含め、包括的・継続的に寄り添い支援を行う。

カフェ就労体験

「Community Café Mali Mali (コミュニティカフェ マリマリ)」を平成25年7月にオープン。
センターと同じ施設内にあるので、相談支援員と就労体験スタッフとの一体的なサポートが可能。

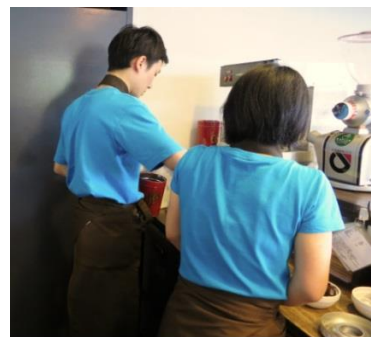
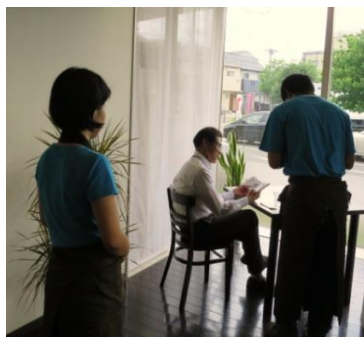


【体験内容】

食器洗浄、清掃、ホール業務補助等の体験

期間 1ヵ月 ※平成26年度8月末 体験者数 2人

平成25年度 体験者数 6人



巡回訪問相談

アウトリーチの一環として、関係機関と連携し、地域や学校等への巡回訪問相談を行い、個別面談や就労支援を実施します。

平成26年8月末現在の巡回訪問状況

		訪問先数	訪問回数	参加人数
南部	少年鑑別所	1カ所	10回	38人
	定時制・通信制高校	4カ所	8回	99人
	地域	1カ所	4回	19人
北部	地域	6カ所	39回	110人

※平成25年度巡回訪問回数は158回、参加人数510人

定時制・通信制
高 校

- ・ 個別相談
- ・ 求人情報提供
- ・ セミナー、面接対策実施

巡回訪問
個別相談

- ・ 広域での支援を目的に訪問相談を行う

少年鑑別所

- ・ 毎月2回、社会人マナーのセミナーを行う

少年サポート
センター

- ・ 警察(少年課)との連携による出張相談

就労支援

就労支援員による アドバイス

就職活動を始める前に、課題や働き方の整理を行い、就労までの目標設定を一緒に行う

『就職活動ハンドブック』の活用



チーム支援

求人検索機をセンターフロア内に設置。ハローワークの就職支援ナビゲーターと連携し、職業訓練へのつながりや職業紹介等を行う



企業見学

就労支援員が同行して職場見学を行い、個別に仕事内容の説明を受ける

求人情報の提供

求人誌や折込求人、おうえん団登録企業の求人の情報を提供

企業とのマッチング

「受入れたい企業」と「働きたい求職者」との出会いを演出します

応募書類・面接

随時、履歴書・職務経歴書の書き方と面接対策の個別レッスン

パソコンコーナー

応募書類の作成、情報検索 WordやExcelの練習等にご利用

スーツ・自転車 レンタル

面接で着用するスーツや、面接先に行くための自転車をレンタル

26年度開催 訓練・資格取得メニュー

定着フォローの一環として、リフレッシュを目的に交流会を行い、職場での様子を伺う
また、職場でのストレス対策のセミナーを実施

定着支援交流会

技能・資格取得をすることによって
専門職での就労の幅を広げる

介護職員初任者研修

実践で役立つ知識や技術を身につけ応募する職種の幅を広げる

フォークリフト資格取得



仕事体験型パソコンセミナー

求職活動を始める前に、生活リズムを整えながら、社会人として必要な知識やマナーを学び、他者と関わることでコミュニケーション力の向上につなげる

サービススタッフ養成講座

清掃作業初級講習

受講者の声

就職準備セミナー

「人見知りも、人の目を見て話すことも少しずつ改善できました」

働くための健康管理や体づくりの大切さを学び、調理実習を通じて協力することや楽しさを知る

通所型・合宿型就労体験

食生活見直しセミナー



「昼夜逆転だった生活が、この2週間で整ってきたので、継続して続けていきたいです」

「気分が沈んでいましたが、研修を通して明るい考えができるようになりました」

「自分を受入れてくれる人がまだ世の中にいるのだと思えるようになり、セミナーが社会に出るきっかけとなった」

就労体験事業

引きこもり経験がある、長期にわたる離職状態が続いている等、就労経験に乏しく不安があり、直ちに一般就労に就くことが困難な方が、就労体験を通じて新たな経験や「働く」ことを実感し、段階的な社会参加を目指します。

通所型就労体験

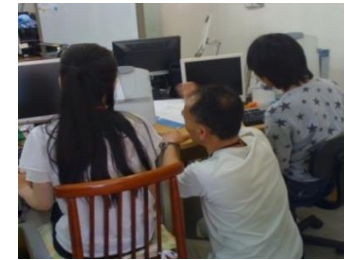
毎日決まった時間に通所するため、体調管理や生活リズムを整えることが大切になります。そして、挨拶や他者とのコミュニケーションがスムーズにできることを目指します。

【体験内容】

企業内、NPO内の補助的作業体験 ほか

期間 1ヵ月 ※平成26年度8月末 体験者数1人

平成25年度 体験者数3人



合宿型就労体験

地域を離れ、合宿型形式にて他者との共同生活・共同作業をすることで、様々な場面で相手のことを思いやることの大切さを実感し、社会参加に必要なことは何かを学びます。

【体験内容】

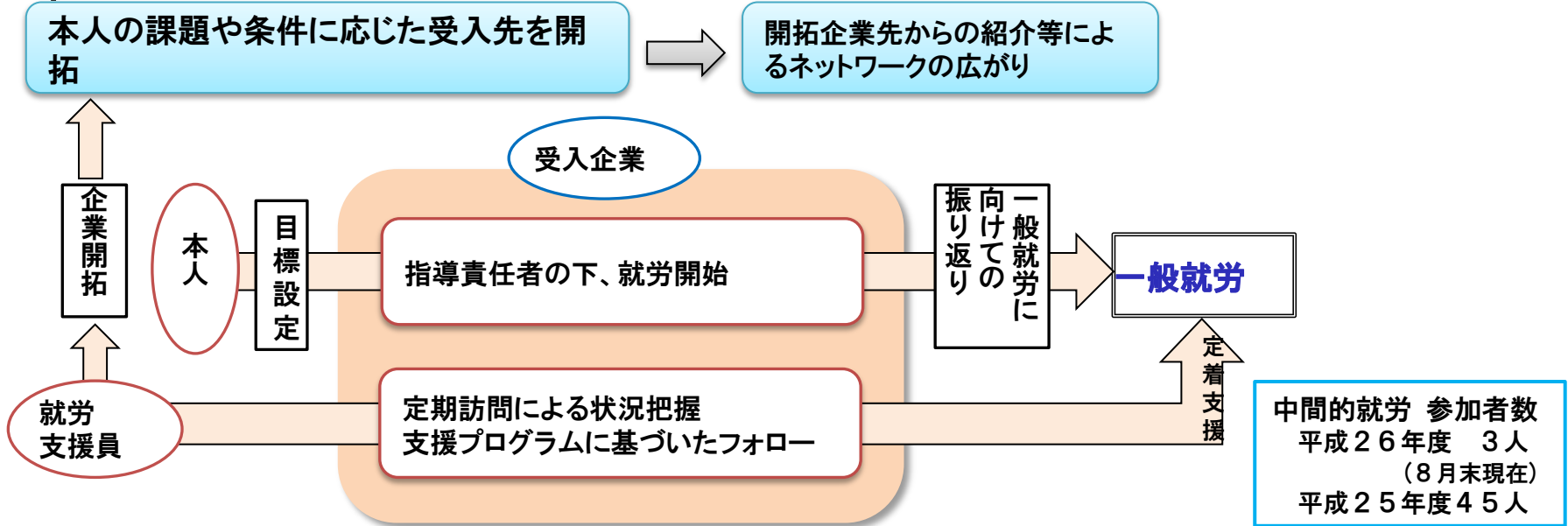
林業体験、農業体験、職場体験 ほか

期間 2週間 ※平成25年度(5日間)体験者数9人



中間的就労サポート事業

中間的就労の内容



受入れ企業先の声



「就労支援員の方から、現状の雇用状況や支援事業等の情報提供とアドバイスを頂けることで、受入体制や今後の社員教育、人員定着に役立ちました」

「就労期間中、定期的に訪問し、受入参加者さんのフォローをしてくださるので、作業指導がスムーズに出来ました」

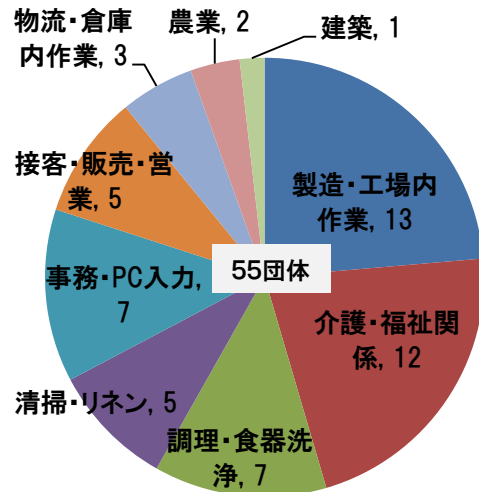
「受入参加者さんのために働きやすい職場づくりを意識したことが、結果として他の社員のためにもなって職場の雰囲気が良くなりました」

就労推進事業の実績

中間的就労 受入れ企業開拓の実績 (平成26年8月末現在)

有給雇用型 受入れ企業 55団体

職種別団体数



平成25年度 中間的就労の実績

◎ 参加者45名、うち15名継続雇用

中間的就労 職種別 参加者数 (人)			
製造・工場内作業	17 〈6〉	清掃作業 リネン	2 〈1〉
物流・倉庫内作業	6 〈4〉	建築業	1
接客・販売・営業	6 〈2〉	介護補助	1
調理・食器洗浄	8 〈2〉	自動車整備補助	1
事務・PC入力	3		
* 〈 〉内は継続雇用			

【支援効果】 ～ 中間的就労から継続雇用へ ～

就労支援員が受入れ企業先へ定期訪問し、参加者や企業からのヒヤリングをもとに双方へのフォローアップを行う。

タイムリーで迅速なサポートが本人の気づきや改善、成長のきっかけとなり、それが企業側の良い評価へとつながり、継続雇用に至った。

平成 24 年度実習生就職状況（平成 24 年度、平成 25 年度合計）

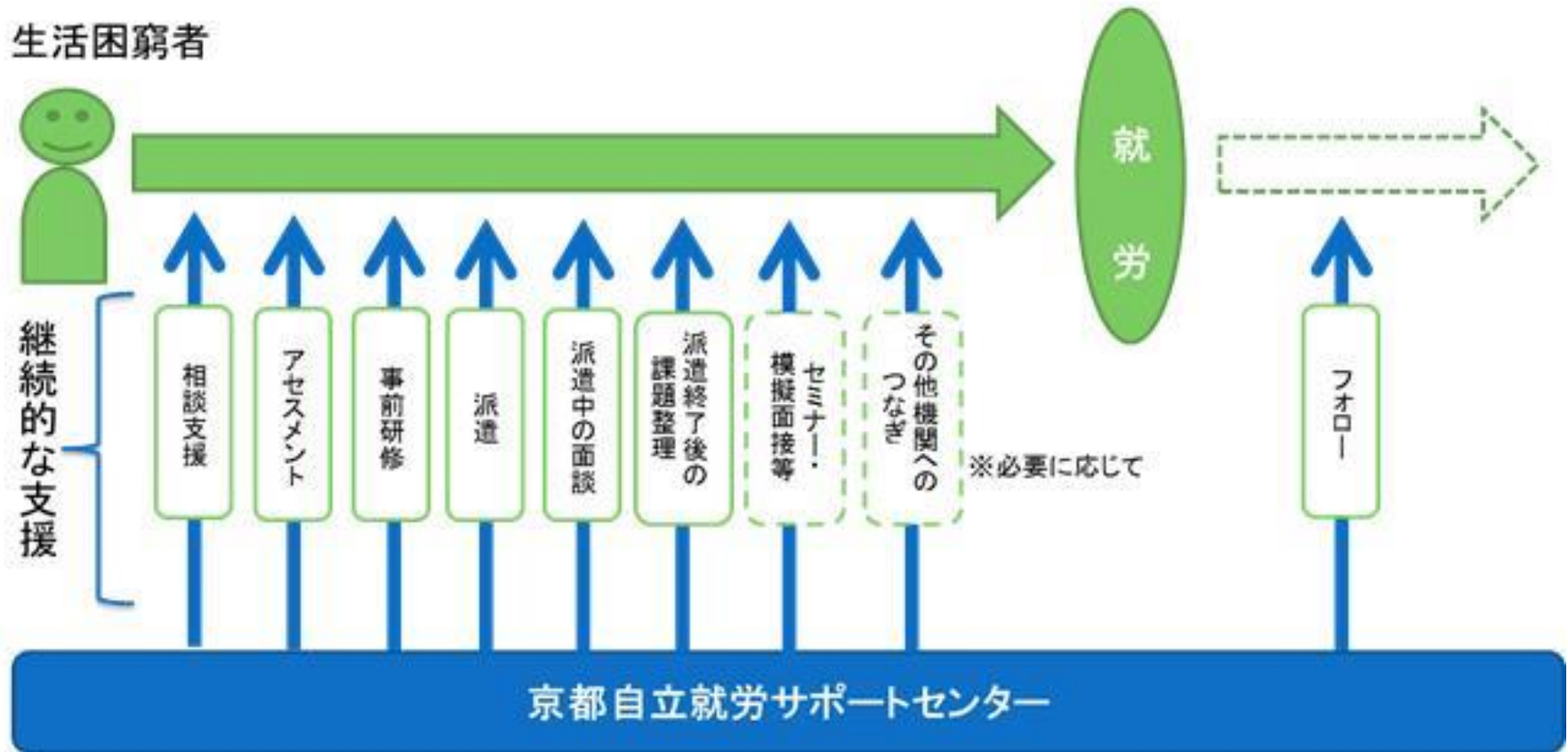
（人）

項目	全体数
H24 実習生	32
H24 実習生のうち H24 に就職した人	18
H24 実習生のうち H25 に就職した人	6
就職者合計	24
H24～25 年度での就職率	75.0%

平成 24 年度実習生の雇用形態別就労実績

雇用形態	全体数（人）	割合
正社員	6	25.0%
パート	12	50.0%
派遣	1	4.2%
契約社員	4	16.7%
請負	1	4.2%
合計	24	100.0%

ジョブトライ事業での継続的支援のイメージ



企業開拓員と相談支援員の密接な連携！

受け入れ企業側の意見

- 人手不足を補うことが出来る
- 雇用意欲はあるがリスクを懸念する事業所の雇用を後押し出来る
- 派遣期間中に雇用の見極めが出来る
- 実習生は2社（センター、人材派遣会社）の面接を経て派遣されてくるため、信用できる人物である可能性が高い
- 事業を活用して継続雇用を行うことにより、求人費用を削減できる
- 過去に受け入れた実習生が皆真面目である

実習生Aさん(45歳、男性)の意見

職種: 倉庫内作業

福祉事務所のケースワーカーと求職活動のためセンターに来所。生活保護受給中。
腰痛の持病あり。

当初は職へのこだわりが強く、求職活動の意欲はあまり見られなかった。相談者(実習生A)に「自分の求職活動を応援してもらっている」という気持ちを持ってもらうため、センター来所の度に担当以外の職員からも積極的に声をかけたり、就職セミナーで自分の長所と短所に向き合う等してもらった結果、約10か月をかけて求職活動への前向きな気持ちを取り戻していった。自ら面接に出向くようになると、無職期間の長さが不利となることを実感。当初は給与面や3か月の雇用期間等に不満を表し、ジョブトライを断っていたが、履歴書に職歴を書きたいと思う気持ちが強くなり、参加を決めた。

実習を始めてからは、職場から自分の能力を認められていると感じたり、同じくジョブトライ実習生として派遣されてきた後輩に仕事を教えたりする等を通し、自己有用感を得るようになった。ジョブトライ先では継続雇用とならなかったものの、その後自ら検索した求人に応募し、契約社員となる。昇給の話が流れた等、職場への不満もあるようだが辞める様子はない。以前は腑に落ちないことがあればすぐに離職していたが、現在は「自分はここで働き続ける」という思いが強いようであり、ジョブトライでの経験が活着ているようにみられる。

実習生Bさん(30歳、男性)の意見

職種: 搬出入作業

当初は就職活動(特に面接)に不安を覚えており、求人検索はするものの、実際に応募に至ることはなかった。しかし、就職支援セミナーの参加等により、人前で話すこと等への自信を養い、地域若者サポートステーションのボランティア事業への参加等を通して就職活動に前向きな姿勢を取り戻した。仕事に就きたいという意欲が高まった結果、フルタイムの就労を目指してジョブトライへの参加を決める。

以前はコミュニケーションに難を抱えていたが、実際にジョブトライを開始してからは、職場の従業員と良好な人間関係が築けるようになったり、食生活や生活サイクルが整って体調が良くなったりしたことにより、切れ目なく仕事を続けていきたいと考えるようになった。

ジョブトライ終了後は本人の希望通り、受け入れ事業所にて継続雇用となった。当初はアルバイトとしての採用であったが、その後契約社員となる。ジョブトライから直接雇用とステップアップしていくことにより、自分のやりたい仕事が見えてきた。そのため、現在はジョブトライ受け入れ事業所を退職し、知人の紹介で製造職の契約社員の仕事を得て働いている。